

「道の駅 ^{きな ばんしょ} 喜名番所」の登録証交付式について

平成18年8月10日に国土交通省において「道の駅」第22回登録で「道の駅 喜名番所」が登録されました。登録証の交付式を下記日程で行いますのでお知らせします。

日時：平成18年9月8日（金）午前10時30分

場所：沖縄総合事務局（4F）特別会議室（ 撮影可能）

「道の駅」は平成5年の第1回登録から平成17年の第21回登録までに全国で830駅が登録されています。また、平成18年度に全国で15駅が新たに登録され、845駅となりました。沖縄においては「許田」「おおぎみ」「ゆいゆい国頭」「かでな」に続いて5番目の登録となります。

問い合わせ先

沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課

課長 上原 勇賢 課長補佐 恩河 稔

TEL: 098 - 861 - 4911

FAX: 098 - 860 - 6575

「道の駅 喜名番所」登録証交付式

平成18年9月8日(金) 10:30

沖縄総合事務局 特別会議室(4F)

進行：沖縄総合事務局開発建設部

道路管理課課長補佐 恩河 稔

式 次 第

1. 開 式
2. あいさつ
沖縄総合事務局
次長 宇塚 公一
3. 申請者あいさつ
読谷村長 安田 慶造
4. 登録証交付
沖縄総合事務局
企画調整官 岩見 吉輝
5. 事業概要説明
「道の駅 喜名番所」
駅長 長浜 功勇
(読谷村建設経済部長)
6. 懇談
7. 閉式

閉式後、記念撮影を行います。

道の駅：喜名番所 概要

担当地整名：内閣府沖縄総合事務局

路線名：一般国道58号

交通量：24,621台/24h(平日) 23,358台/24h(休日)

所在地名：中頭郡読谷村字喜名1番地2

単独・一体の別：一体

道路管理者：沖縄総合事務局長

管理主体：読谷村

施設箇所の特色：「喜名番所」は、その昔、琉球王朝時代の公道であった宿道として首里城と国頭を結ぶ接点に位置し、交通の要所である番所(駅)として利用され、人々の往来、文化の交流が盛んな宿場として賑わった場所であり、いわば道の駅としての機能を有していた。1853年にはこの地に訪れたペリー提督一行の画家ハイネが、番所の絵を描き残していることでも有名である。
また周辺には、世界遺産に登録された座喜味城跡や喜名古窯跡、郷土色豊かなヤチムンの里や読谷山花織工房なども近く、歴史と文化に豊かな地域としても知られ、休憩機能を兼ね備えた総合的な観光情報を提供する施設です。

施設全体面積：4,857 m² (内道路管理者 3,743 m²)

施設内容：

駐車場 39台 (内 39台24時間利用可能)
全体 39台(大型車 2台、小型車 35台、身障者 2台)換算 41台
内道路管理者 39台(大型車 2台、小型車 35台、身障者 2台)換算 41台

トイレ 16器 (内 8器24時間利用可能)
全体 16器(男(大) 4器・(小) 4器、女 6器、身障者 2器)
内道路管理者 8器(男(大) 2器・(小) 2器、女 3器、身障者 1器)

公衆電話 1台 (内 1台24時間利用可能)設置予定

【喜名番所】

営業時間9:00～18:00 休館日(月曜日、年末年始)

- ・無料休憩所
- ・自動販売機
- ・道路情報、気象情報端末機
- ・観光案内端末機(4カ国語)
- ・リーフレット配置(4カ国語)
- ・展示パネルモニター
- ・東屋 2棟

【記者発表資料参考資料】
「道の駅 喜名番所」 全景写真



時と道が伝えるもの



戦前の読谷山村役場
昭和10年代の写真。門前には老松がそびえ、歴史の重みを感じさせる。



大戦時に撮影された航空写真
1945年、沖縄戦で米軍上陸前の読谷山村役場(旧喜名番所)付近。



沖縄本島中部に位置する読谷村

- 面積 / 35.17km²
- 人口 / 38,575人(男19,244 女19,331人)
(2005年12月末現在)
- 村制施行 / 明治41年4月1日
- 特産品 / 読谷山花織、ヤチムン、あわもり、読谷紅いも、ガラス工芸品
- 村木 / フクギ
- 村花木 / イッペー
- 村花 / ブーゲンビリア



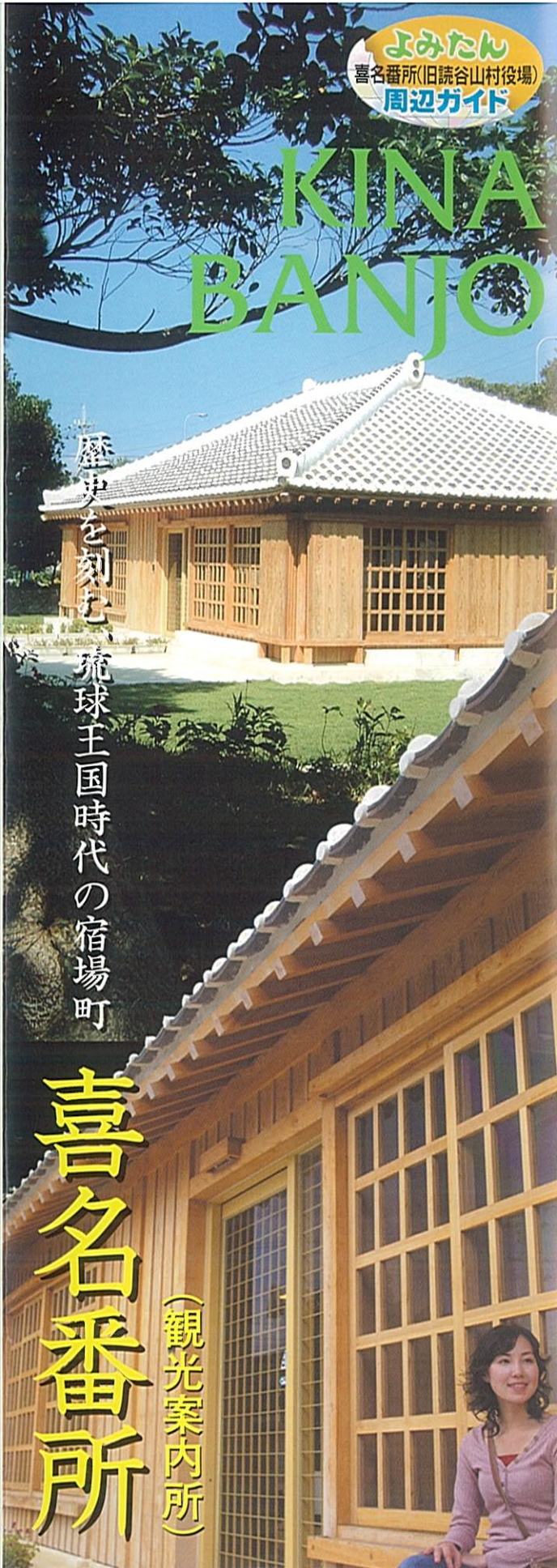
ゆたさある風水
優る肝心
咲き誇る文化や
村の指針



喜名番所(旧読谷山村役場)周辺ガイド

発行: 読谷村役場建設経済部商工観光課
〒904-0392 沖縄県読谷村字座喜味2901番地
TEL098-982-9200 <http://www.yomitani.jp>

企画・編集: 株式会社 国建 TEL098-862-1106
監修: プロジェクトコア TEL098-957-1772
印刷: 丸正印刷株式会社 TEL098-835-8181



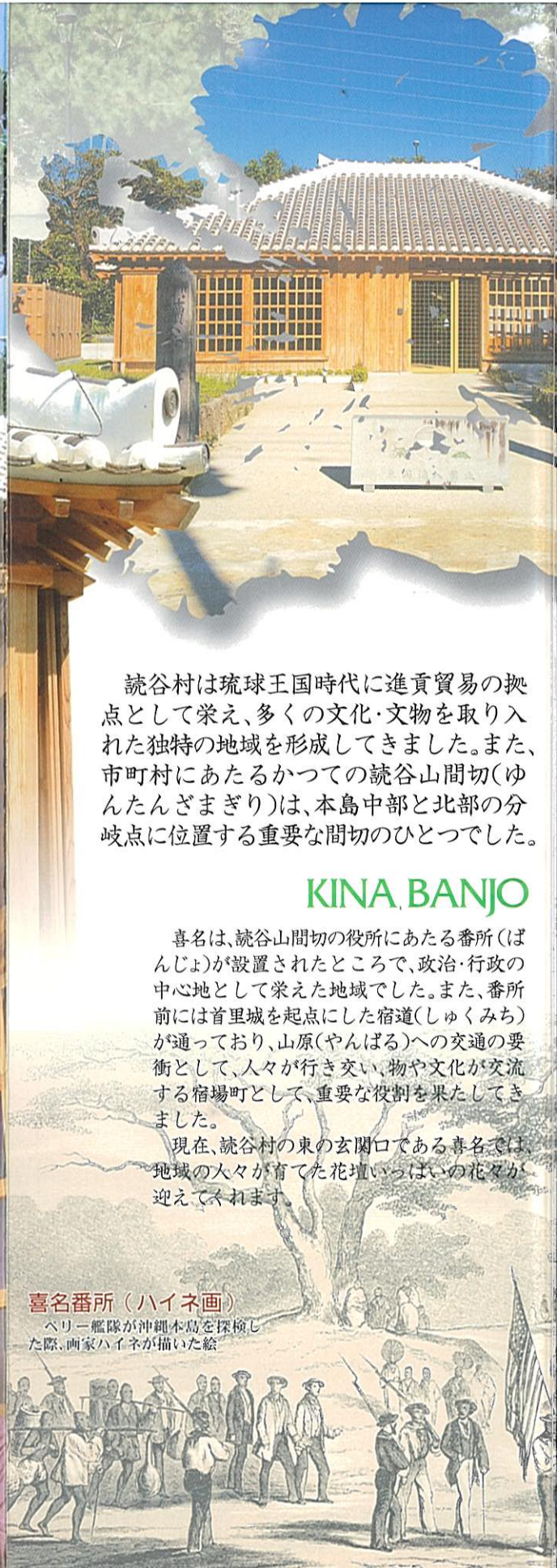
喜名番所

(観光案内所)

歴史を刻む、琉球王国時代の宿場町

よみたん
喜名番所(旧読谷山村役場)
周辺ガイド

KINA BANJO



読谷村は琉球王国時代に進貢貿易の拠点として栄え、多くの文化・文物を取り入れた独特の地域を形成してきました。また、市町村にあたるかつての読谷山間切(ゆんたんざまぎり)は、本島中部と北部の分岐点に位置する重要な間切のひとつでした。

KINA BANJO

喜名は、読谷山間切の役所にあたる番所(ばんじょ)が設置されたところで、政治・行政の中心地として栄えた地域でした。また、番所前には首里城を起点にした宿道(しゆくみち)が通っており、山原(やんばる)への交通の要衝として、人々が行き交い、物や文化が交流する宿場町として、重要な役割を果たしてきました。
現在、読谷村の東の玄関口である喜名では、地域の人が育てた花壇いっぱいの花々が迎えてくれます。



喜名番所(ハイネ画)
ペリー艦隊が沖縄本島を探検した際、画家ハイネが描いた絵

